



朝夕の風の冷たさに秋の深まりを感じます

1日の気温差が大きくなるこの時期から、風邪やウイルス性胃腸炎などが増えてくるので、少しでも体調が悪い時は、早めに休息をとっていきましょう。

手足口病について

夏の盛りに市内で流行していた手足口病ですが、当園では全体で一名のみの発症でした。このまま終息するかと思っていたところ、9月中旬から数名が発症しています。今のところ重い症状の園児はいませんが、症状によっては高熱、重い口内炎、無菌性髄膜炎などがみられることも。

- ・ 口の中が痛くて水分もあまり飲めない
 - ・ 高い熱が続く
 - ・ 吐いてぐったりしている
- こんな時はもう一度受診しましょう。



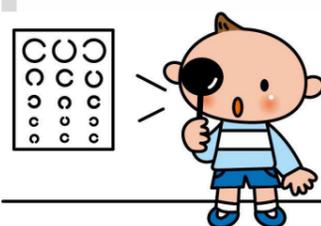
おたふくかぜについて

先月、日本耳鼻咽喉科学会が行った初の全国調査で、過去2年間で少なくとも14人が、おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)の後遺症で、両耳が重い難聴になったとの発表がありました。この14人の中には大人も一部含まれてるとのことですが片耳難聴も300人だったとのこと。難聴になると、ほとんど改善は望めないといわれます。感染予防として予防接種があります。接種時は、かかりつけ医に相談しながらすすめましょう。

10月10日は目の愛護デーです

10月10日を横にしてみると、目と眉の形によく似ていることから、この日を目の愛護デーに決めたとされています。目は遠くのものを見たり、近くのものを見たり、動くものを見たり、動きながら見たりすることで、段々良く見えるようになっていきます。両方の目を使い、遠近感覚、立体視といった両眼視機能を含めた視覚の発達がほぼ完成するのは6歳くらいです。でも、こんな時は心配です。眼科に受診しましょう。

- ・ 目を細めてテレビを見る
- ・ 横目でテレビを見ようとする
- ・ 首を傾けて物を見ようとする
- ・ すぐ前まで近づいてみる
- ・ 顔を近づけて本を読む
- など



RSウイルス感染症について

夏頃からRSウイルス感染症の流行が、あちこちで言われています。

このころ、園医からも、市内でRSウイルス感染症に感染したと思われる乳幼児の受診率が高いとお話がありました。

当園では、9月に入ってからRSウイルス感染症と診断され、お休みする園児がみられています。

RS感染症に乳児がかかると重症化することがあり、症状によっては、入院加療が必要になることもあります。

潜伏期間は2～8日です。初期症状は、発熱、咳、鼻汁で、症状が軽ければ多くは1週間程度で回復します。しかし、初感染児の30%程度で、発症から2～3日のうちに咳がひどくなり、食欲がなくなり、喘鳴、呼吸困難症状が出現し、細気管支炎や肺炎に移行することがあります。特に3か月未満児では、高率に重症化することが多いといわれます。

初期症状は、風邪と似ていますが、咳が続くようでしたら、早めに受診をするようにしましょう。

RSウイルス感染症と診断された場合、登園届の提出が必要になります

10月の保健行事

5日(木)全園児健康診断(午前中)
(園医の大山医師により、10頃から開始予定です)

12日(木)身体測定

